

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

イチゴにおけるアザミウマ類の発生状況と防除対策（技術情報第14号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

イチゴ栽培ほ場でのアザミウマ類の発生が多い状況です。今後も発生が多い状況が継続すると、果実での被害が増加する恐れがあるため、ほ場での発生状況を確認し、発生が認められる場合には薬剤等による防除を行いましょう。

1 現在の発生状況

県内のイチゴ施設栽培ほ場において、本年は11月からアザミウマ類（主にヒラズハナアザミウマ及びミカンキイロアザミウマ）の発生が平年に比べて多い傾向にあり、12月に実施した巡回調査においても寄生株率32.0%（平年6.9%）、寄生頭数6.5頭/10株（平年1.2頭/10株）で平年比多の発生であった（図1、2）。

2 今後の発生予想等

福岡管区气象台が12月16日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低い予想であるものの、巡回調査における本害虫の本年12月の発生量は過去10年で最も多いことから、今後も本害虫の発生が平年に比べて多くなることが予想される。

特に、ハダニ類に対する天敵を利用しているほ場では、使用できる薬剤の選択肢が限定される場合があるため、本害虫の発生量がさらに増加し、被害が拡大することが懸念される。

3 防除対策等

本害虫は、イチゴの花や果実に寄生し、果実表面の加害により果実の外観品質等を低下させる（写真1、2）。発生が多くなり、ほ場内に様々な発育ステージが混在するようになると防除が困難になる*ため、以下の防除対策を実施する。

*ハダニは土中に潜んでいるため薬剤がかからず、十分な防除効果が得られない。

(1) 早期発見と発生状況の把握

ア 施設内に青色粘着板トラップを設置し、トラップへの誘殺の有無により早期発見と発生状況の確認を行う。

イ 開花中の花を白紙上で軽く叩くか、軽く息を吹きかけるなどを行い、花での寄生状況を確認する。

(2) 耕種的・物理的防除

ア 施設内及び周辺の雑草は重要な発生源となるので、開花する前に除草する。また、施設内の観賞用の花き類も撤去する。

イ 施設内に青色粘着板トラップを設置し、発生密度を低下させる。

(3) 薬剤防除

ア 多発生すると防除が困難になるため、発生初期から薬剤防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。

ウ 訪花昆虫（ミツバチ等）への影響や天敵（カブリダニ類等）を放飼したほ場においては天敵への影響を考慮して、使用する薬剤を選定する。

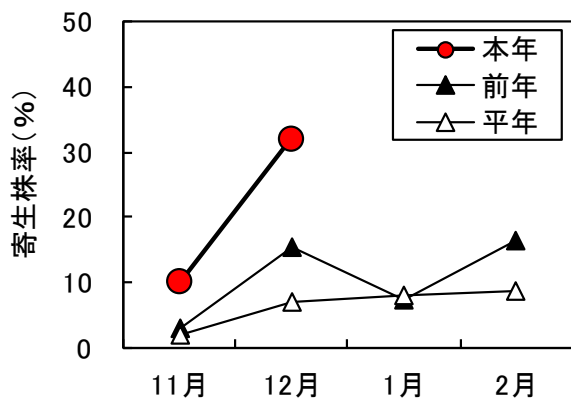


図1 アザミウマ類の寄生株率の推移(イチゴ)
(11-2月:本ぽ)

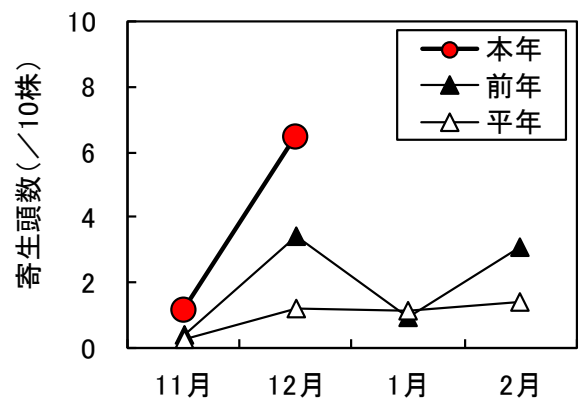


図2 アザミウマ類の寄生頭数の推移(イチゴ)
(11-2月:本ぽ)



写真1 イチゴ花へのアザミウマ類の寄生の様子

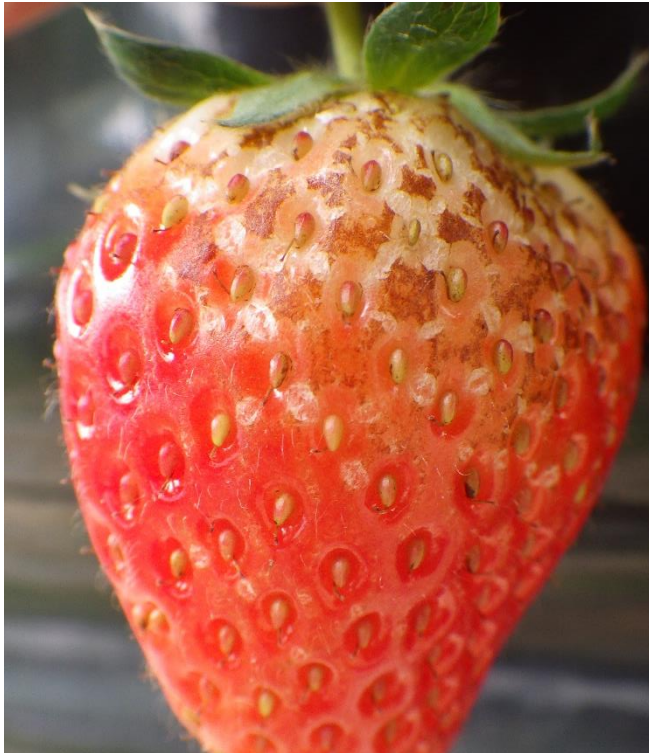


写真2 アザミウマ類による果実表面の被害

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター 生産環境研究所
予察指導室) 担当：中村、中井
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493